

「食と農」の博物館

展示案内 No.64

展示期間 ■ 2013.3.30～2013.9.16

東京農業大学「食と農」の博物館

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28

TEL.03-5477-4033

FAX.03-3439-6528

(URL) <http://www.nodai.ac.jp/syokutonou/>

開館時間 午前10時～午後5時 (4月～11月)
午前10時～午後4時30分 (12月～3月)

休館日 月曜日(月曜が祝日の場合は火曜)・毎月最終火曜日
大学が定めた日(臨時休業がありますのでご注意ください)

『緑化作品にみる「農大造園家」 90年の軌跡、そして明日へ』

～明治神宮の森から

首都高速大橋ジャンクション「目黒天空庭園」まで～

企画の趣旨

東京農業大学造園科学科の前身である、日本初めての造園学の高等教育機関「東京高等造園学校」は、関東大震災の翌年の大正13(1924)年に、広く造園に関する図書だけでも240冊余りを世に送り出した造園学の泰斗であった上原敬二博士(1889～1981年)によって、一円が焼け野原となった都市を緑の都市に復興、再生するために役立つ技術者(造園家)の養成を目的に設立されました。

創立から今日に至るまでの約90年間において、1万人に及ぶ卒業生が「造園の学び舎」を巣立ち、上原敬二先生の意思を引き継ぎ、関東大震災、第二次世界大戦の戦災からの復興はもとより、緑の日本の建設・保全に縦横無尽に貢献してきました。

庭づくりから都市内外の公園をはじめとするあらゆる施設空間の緑地や街路樹の整備、自然の保全・利用・再生、さらには建築物の屋上に代表される都市の緑化に至るまで、北は北海道から南は沖縄まで、日頃、目にする緑の空間の整備には、何らかの形で本学科の卒業生が関係しており、その足跡は海外にも及んでいます。

創立から90年近くが経ち、「農大造園力」の社会への貢献を多くの人に知って頂くため、これまでに卒業生が数多く手がけてきた具体的な緑のものづくりを「緑化作品」と称し、その一端を本企画で紹介することにいたしました。ただし、大仰に言えば卒業生が手がけてきた何千分の一に相当する仕事だけをとりあげたに過ぎず、「農大造園力」の全容を紹介できたとは決して思えません。

その選択にあたってはなるべく、さまざまなメディアによって過去、紹介されたもの、毎年、学科が活躍する卒業生の業績を顕彰する意味で授与する「造園大賞」受賞者などに目配りし、最後は研究室の学生諸君の目線、直観力にゆだねたというのが正直なところです。広範多岐にわたる緑化作品を「庭園」「公園」「道路緑化」「各種施設空間域の緑化」「建築構造物の緑化」「森づくり・自然再生」「テーマパーク」「海外空間」など空間・テーマ別に種別し、極力、造園・緑化作品の領域、つまり造園家の活躍の舞台の広さを世の中の人に知らしめることに腐心致しました。なお、それぞ

れの空間・テーマ別に、誰のどの作品を選ぶのか難渋しましたが、基本的には学生の視点にまかせました。また、本企画で取り上げさせて頂いた卒業生には、作品を制作した当時の状況をなるべく「生の声」として会場にご来臨頂いた方々に伝えるために、学生諸君にインタビューさせ、その内容も企画パネルの一部で紹介させて頂きました。

最後に、創設者の上原敬二博士が関係した「明治神宮の森」(1920年竣工)から本年、2013年3月末に竣工した首都高速大橋ジャンクション「目黒天空の庭」に至るまで、本企画で取り上げた緑化作品を年代順に並べた極めて大雑把な略年表を作成しました。

本学科の卒業生が直接・間接に係った緑化作品は数えようがありません。全国規模で見るとおそらく数千件のオーダーにのぼると見られます。

つまり、本企画で紹介した緑化作品は、まさに氷山の一角であり、ここで紹介しきれなかった卒業生のあまたの作品群が「農大造園力」の足跡であり、次代につながる「農大造園力」の成果であり、パワーの源泉であるといつてよいと思います。

さらには1つの造園空間・緑化作品は1人の造園家の手によって作り出されるものではなく、計画・設計・施工・管理のさまざまな段階で多くの技術者が協働して始めて成しうるものです。その中にももちろん本学科の卒業生が数多くおります。なお、本企画展示において「造園作品」とはせずにあえて「緑化作品」としたのは、造園はデザイン素材として生き物である植物(緑)を使いこなすことが本義であり、この点がコンクリート等の無機物がデザイン素材となる建築・土木とは基本的に異なる点であることを強調したかったためです。

最後に本企画でも取り上げており、旺盛な創作活動を続けている現代造園家によるそれぞれの「作品にかけた思い、造園の魅力」について語ってもらう講演会「緑の語り部、作品にかけた思い・造園の魅力を語る」も企画致しました。そちらの方もぜひとも聴講頂ければ幸いです。

東京農業大学造園科学科／造園地被学研究室・都市緑化技術研究室

庭園

農大造園科学科から多くの作庭家が誕生しました。「昭和の小堀遠州」と呼ばれた中根金作（昭和18年卒）は、日本万国博覧会（大阪万博）の日本庭園の設計作庭に参画、足立美術館庭園や城南宮楽水苑等の作庭をした人物です。足立美術館庭園は、四季折々さまざまな表情を醸し出し、米国の日本庭園専門誌による「日本庭園ランキング」で10年連続日本一に選ばれました。伊藤邦衛（昭和22年卒）は、農大卒業後清水建設に入社。後に独立し、大田黒記念公園や徳川園など多数の庭園の設計を手掛けています。

また、今日活躍している代表的な作庭家に、

榊原八朗（昭和42年卒）と井上剛宏（昭和44年卒）がいます。榊原八朗は、昭和記念公園内日本庭園、六本木ヒルズ内にある毛利庭園や東京ミッドタウンに隣接する檜町公園など、誰もが知る現代の庭園を造りました。モダンでわかりやすい自然風景式の榊原スタイルは、都心の超高層ビル空間に爽やかな風を運んでいます。井上剛宏は、京都迎賓館を始め、京都にある梅小路公園の「朱雀の庭」を造るなど京都を中心に活躍しています。伝統的な技法を重視しつつ、常に斬新さを求める現代の庭園作家と呼ぶにふさわしく、作風は秀逸です。



最先端の都心のミッドタウンに隣接して日本庭園の粋を集めた檜町公園の存在は大きい



洋花を大胆に使った日本庭園、梅小路公園「朱雀の庭」

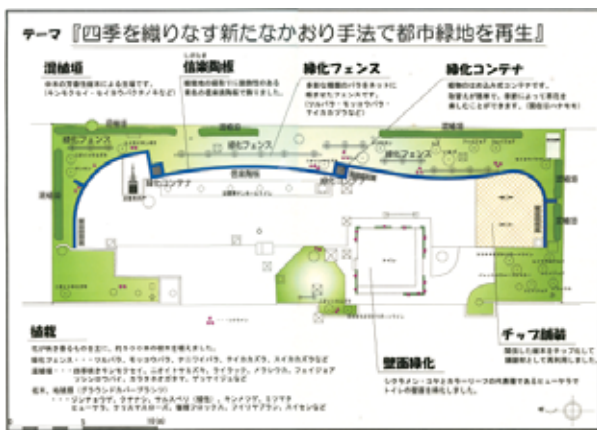
公園

公園は人々の暮らしを彩り、感性を育み、時には学びの場として、質の高い生活を営むための市民の共有の場として多くの人々に親しまれています。したがって、ただ街の中に存在するだけでは、公園としての本質は満たされるわけではありません。公園を利用すること、利用され続けることが重要なのです。そのため私たち造園家は地域の特徴や資源を活かした公園の設計やテーマ性を持たせたデザイン、公園の維持管理を行い、地域の資産となるよう日々努めています。

そこで今回は、東京農業大学造園科学科の前身である東京高等造園学校から現在に至るまで、造園空間の中で中核的存在である公園の計

画・設計に係る数多くの造園家を輩出してきたことをふまえ、先人から現在第一線で活躍する方々の設計によって作られた公園の一端を紹介することで、造園家の仕事の内容を理解する一助になればと思っています。ただし、この90年の間、日本国内で農大造園家が設計・施工に係った公園の数はおそらく10,000箇所に近い数にのぼると推測されます。その中で、どの公園を選び出し紹介するか、極めて悩ましい話です。

なお、現代においては造成後、数10年を経て、植栽が過繁茂し、施設も老朽化してきた公園の再生ということが新たな課題となってきました。これらの事業にも農大造園家は先駆的に取り組んでいます。



公園再生の手本として「香り」をキーワードに当研究室で設計、施工した馬事公苑前緑地

各種施設空間の緑化

各種施設空間の緑化として、競技場、集合住宅、工場の3つにテーマを絞り込み、計4ヶ所の空間の緑化を紹介します。競技場としては2002年に日韓開催で行われたワールドカップで使用された、近藤三雄（昭和46年卒、現教授）が芝生フィールド検討委員会の委員長を務めた横浜国際総合競技場（日産スタジアム）を紹介します。集合住宅の緑化では、「造園大賞」を受賞した山本富雄（昭和50年卒）の手がけた、武蔵野にある深大寺レジデンスを紹介いたします。工場の緑化は、堀口正人（昭和51年農学科卒）と松尾教徳（昭和57年卒）が手がけ横浜環

境活動賞企画部門大賞を受賞したキリンビール横浜工場と、日本緑化センター会長賞を受賞した丹下貴啓（平成8年卒）が手がけた日本食研工場をとり上げました。

競技場はFIFA（世界サッカー連盟）から世界一の芝生ピッチと高く評価されました。深大寺レジデンスは、都心の住宅街に武蔵野の雑木林の再生を行い、造園大賞を受賞しています。工場の緑化分野でも、キリンビールと日本食研と言った、日本を代表する食品会社の工場をグレードの高い緑化空間に仕上げた取り組みも見事だと思います。



さまざまな造園の知恵と技術が投入された世界一の芝生ピッチと称された日産スタジアム



世界一の芝生ピッチを支える植栽基盤 30cmの砂の下に50～60cmの3層の砂利の排水層。豪雨時でも湛水せずプレーが可能



工場緑化のイメージをくつがえすデザイン性能に優れた日本食研工場の庭



道路緑化

古の都の大路、その後の時代の街道や現代の都市の道路を彩る並木（街路樹）は、飢餓対策、道標、緑陰、熱環境の改善など、さまざまな役割が課せられ、現代では公園と並んで身近な緑の代表的なものとなっています。何と北は北海道、南は沖縄に至るまで高木性の樹種に限っても500種類内外のものが植栽されています。

一方、現代では、日本中をネットワークするような形で高速道路が建設されるようになり、

総延長も7,000km超となっています。高速道路の建設が周辺的环境や景観に負荷を及ぼさぬよう、また道路内の快適性や安全性を高めるため、植栽には機能植栽と呼ばれる計画的対応がとられています。

街路樹や高速道路の緑は、都市や国土の緑の軸線を形成するかけがえのないものとなっており、その計画、造成、管理に多くの農大造園家が係っており、日本の道路緑化の牽引者となっています。



市の担当部長の要職にあった卒業生の鶴の一声で見事に剪定、整形されたイチョウ並木



快適で個性的な道路空間「浦安シンボルロード」



新たな知恵と技術で殺風景な首都高速道路を緑化

屋上庭園

日本における屋上緑化の始まりは意外と古く、今から約150年前の幕末の時代から造られていたことが明らかとなっています。最近では地球温暖化やヒートアイランド対策、生物多様性の観点から、屋上緑化が注目されています。また、財団法人の都市緑化機構による「屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」が毎年開催されています。今年で11回目をむかえ、数々の作品が受賞されています。農大造園科学科の卒業生も、数多くの屋上緑化空間を手掛けており、このコンクールで受賞された作品もあります。当研究室が設計・施工した2箇所の和風モダン

な屋上庭園、東京農業大学第一高等学校屋上「天空の和みの庭（2003年）」と、目黒区総合庁舎本館屋上「目黒十五庭（2005年）」も受賞の栄に浴しています。今年の3月に竣工した首都高速大橋ジャンクション屋上には『目黒天空庭園』が造られ、都市部における貴重な緑地の役割を担っています。7,000m²にも及ぶ広大な回遊式空間を伝統的なマツ等の仕立物や信楽焼の陶製品を多用し、日本的風情を醸しています。今後も、このような都市部における屋上緑化空間が高く評価され、屋上緑化の発展・普及が期待されています。



当研究室の設計・施工によって農大一中、一高の屋上に学校の屋上としては、日本初の本格的日本庭園が実現



村野藤吾の建築作品として有名な目黒区役所本庁屋上に120年生の盆栽仕立のゴヨウマツと信楽焼陶製品が主役の日本庭園を造営



世界的にも珍しい立体構造の首都高速大橋ジャンクションの7,000m²に及ぶドーナツ状の屋上に、回遊式の和風モダンな公園が出現

テーマパーク

1980年代以降、日本各地でさまざまな趣向を凝らしたテーマパークが建設されました。その多くにも農大造園家が係っています。その中でも何とんでも、いつの時代でも多くの人を集め光彩を放っているのがディズニーランドです。ディズニーランドの魅力は単に施設やアトラクション等のエンターテインメントの素晴らしさだけではなく、さまざまな機能を達成するために園内全体に配されている花や緑の存在なくしては語れません。敷地全体の縁辺部にはバームと呼ばれる土手が巡らされ、防風林としてクロマツが植栽され、潮風や寒風によってゲスト（来園者）が不快な思いをしないように、また周辺のホテルの建物も園内からは見えないように配慮されています。さらにジャングルクルーズに代表されるように園内は幾つものテーマ性

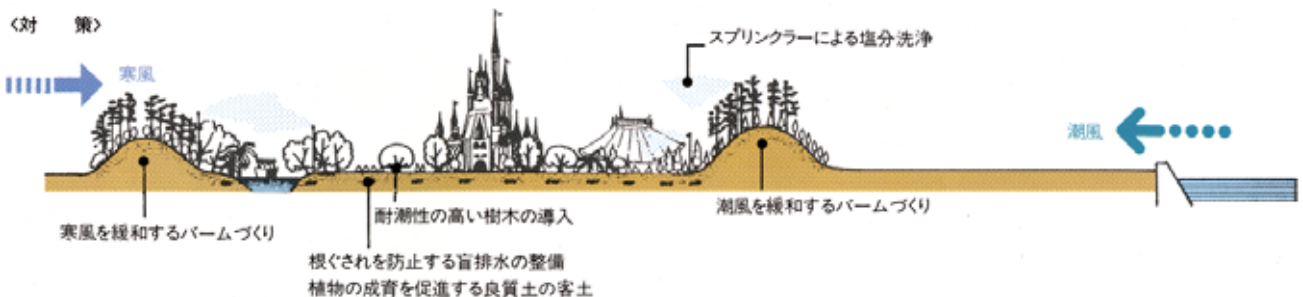
をもった区画に分けられ、それぞれの「らしさ」を醸すため植物の選択には最大限の配慮がなされています。樹木によって動物や幾何学的に整形されたトピアリーも夢の園を演出する重要な役割を担っています。これらの花や緑は、枯れた花や葉・枝を来園者が見ることのないように徹底した維持管理が施されています。その管理計画も見事です。以上のようにディズニーランドの花や緑の計画、設計、施工管理のさまざまな分野で多くの農大造園家が係っています。中でも植栽設計の中核的役割を担った山本紀久（昭和38年卒）、花や緑全般の運営管理の要の役割を果たした中山好央（昭和53年卒）の2人の農大造園家の素晴らしい働きが、今のディズニーランドの花や緑の魅力を支えているといっても過言ではありません。



本場アメリカのものと同様の思想とデザインのディズニーランドが浦安に出現



バックヤードで養生中のミッキーマウスのトピアリー



夢の国を実現するため、植栽によって潮風、寒風を防ぐ、隣接するホテルの建物を遮蔽するなどの工夫が盛りだくさん

森造り、緑の再生・復元

造園の重要な仕事の1つに、都市内に森に代表される自然性の高い緑を新たに再生するということがあります。それは決して容易なことではありません。ただ木を植えて森になる訳ではありません。さまざまな知恵と技術が必要となります。皆さんは東京・代々木にある「明治神宮の森」をご存知でしょうか。訪れる内外の人の多くは、うっそうとした広大な常緑広葉樹の森を見て、元々そこにあった自然の森と信じて疑いません。実はあの明治神宮の森は90年前(1920年)に、時の造林・造園学の関係者の知恵と技術によって造成された「人のつくった森」です。その計画者の主役の1人が本学科の創設者の上原敬二です。72haの広大な土地に「永遠の杜」をつくるというコンセプトの下、10万本の献木を使い、自然の営みだけでは数百年も

かかるものをわずか50年あまりでつくりあげてしまいました。当時の造園力の素晴らしさに驚嘆します。

また、「生物多様性」が時代のトレンドとなった現在では、自然と切り離された都市の中に、生き物の棲める小さな自然を再生しようということでビオトープづくりが各所で行われます。雑草天国とも言える日本の風土環境の中で、小さな自然を再生、維持するためには周到な知恵と計画性が求められます。ビオトープという名の下、不快な藪となっている空間もあります。本学科の卒業生が関係して、ビオトープの本義にかなう空間として造成、管理されている仕事事例として「深川ギャザリオ」「アーベインビオ川崎」「東京ガス環境エネルギー館」の3箇所を紹介します。



造園家の知恵と技術によって、短時間で自然に近い「永遠の杜」も造成できる。明治神宮の森

海外空間

東京農業大学の造園科学科出身者には、海外で活躍している人もたくさんいます。ここでは、井下清（1884～1973）が手がけたシアトル日本庭園（アメリカ合衆国）、小林治人（昭和36年卒）が手がけた日本ノルウェー友好の庭（ノルウェー）、藺田穰（昭和38年卒）が手がけたブラジリア日本庭園（ブラジル）、中島健（昭和12年卒）が手がけたカウラ日本庭園（オーストラリア）といった本学出身の代表的な造園家の海外作品を紹介しました。彼らのおかげで日本庭園の美しさは世界に伝えられています。日本庭園は、日本の美しい自然の風景を小さな空間で表現しています。その表現技法の巧みさはこれまで日本庭園になじみのなかった彼地の市民にも賞でられ、日本的造形美は多くの市民に感動を与えているようです。

あとがき

以上に掲げた主要な造園空間だけではなく、最近では校庭の芝生化、市電軌道敷の芝生化、緑のカーテンや壁面緑化など、今日的な緑化事業の推進にあたって農大造園家は指導的役割を果たしています。

本展示は「緑化作品」に限定し、農大造園家の活躍振りの一端を紹介することで、造園の仕事内容や魅力を多くの人に知ってもらいたいと願い、企画したものです。

より広範な農大造園家の活躍振りについては、卒業生の仕事内容を88項目にわたって紹介した図書、「東京農業大学造園科学科編『造園力で地球を庭に』、東京農業大学出版会、2009年、1500円」をぜひご一読頂きたいと思います。あなたが知らない奥深い造園、造園家の仕事振りにきっと魅了されるはずです。

（文責：造園地被学・都市緑化技術研究室室員
+ 近藤三雄）



多くの農大造園家が係わり、実現した小学校の校庭の芝生、生徒も元気になる。和泉小学校



農大造園家の提案によって実現した日本一の市電軌道敷の芝生化、全線 8 km 超が緑の軸線に。鹿児島

造園・造園家への誘い —東京農業大学造園科学科の門を叩こう—

本企画では、90年にわたる農大造園家の手による緑化作品の一部を紹介することによって、造園・造園家という仕事の内容の一端、その魅力を紹介することを意図しました。

仮に、この世に造園家が居なかったならば、庭も公園も街路樹も、工場や学校などの施設空間を彩る快適性・機能性に優れた緑も存在しません。そんな世界、町の姿を想像するとぞっとさせられます。人や都市、環境にとってかけがえのない緑、その創造主が造園家なのです。

造園家が頑張れば頑張るほど、世の中、環境は良くなります。とてもやりがいのある仕事です。そのことが学べるのが東京農業大学造園科学科です。大学院も併設しています。

この企画展示をご覧になって本学科に興味を覚えた方は学科のホームページをのぞき見て下さい。

そこには明日の日本の緑の担い手となる学びの場の詳細が記されています。

造園科学科ホームページURL：<http://www.nodai.ac.jp/land/index.html>

展示の主催・企画・制作

【主催】東京農業大学 地域環境科学部造園科学科

【企画・制作・展示】

地域環境科学部造園科学科造園地被学研究室・都市緑化技術研究室

【展示責任者及び展示案内文責】近藤三雄（地域環境科学部造園科学科 教授）

その他の展示・催事のお知らせ

■常設展

「醸造のふしぎ—微生物が醸す世界—」展 【期間】平成24年3月30日（金）～平成26年3月23日（日）

【主催】東京農業大学応用生物科学部醸造科学科、同短期大学部醸造学科

鶏（ニワトリ）剥製標本コレクション

展示中

色々な酒器コレクション

展示中

農大卒業生の蔵元紹介（酒瓶のオブジェ）

展示中

■企画展

「緑化作品にみる「農大造園家」90年の軌跡、そして明日へ」

—明治神宮の森から首都高速大橋ジャンクション「目黒天空庭園」まで—

【会期】2013.3.30（土）～2013.9.16（月/敬老の日）

【主催】東京農業大学地域環境科学部造園科学科

「日本の森林復旧」展 —日本の山はハゲ山だった—

【会期】2013.3.30（土）～2013.7.15（月/海の日）

【主催】東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科